

2011 年度活動計画

I 組織・運営

1. 第 37 回定例総会

日時：2011 年 5 月 28 日(土)

場所：pia NPO 6 階大会議室

記念企画：地域子どもアドボケイトネットワーク構築プロジェクトのスタートプログラム
子どもアドボケイト基礎講座①「子どもアドボケイトとは」

講師：堀正嗣、栄留里美

2. 会員の拡大と広報の充実

(1) 会員の拡大

昨年度に引き続き、会員の減少が見られるため、会員の拡大に取り組む。どのようにしたら会員の拡大につながるか、広く会員に語り、検討していく。また、機関誌『はらっぱ』の頒布促進等とも絡めながら検討していく。

(2) 広報の充実

- ①ホームページおよびブログの更新に努める。
- ②現会員に継続していただくため、魅力ある情報（講座・学習会等の案内、事務局情報）を随時、発信する。
- ③人権保育教育連続講座、自治労全国保育集会、全国人権保育研究集会等において、『はらっぱ』等を販売するとともに、「いまだけキャンペーン」を張るなどして入会につなげる。
- ④企業の協賛・後援を得るべく、広報に努める。
- ⑤センターの相談事業（チャイルドライン O S A K A、ファミリー子育て何でもダイヤル、子ども家庭相談室）を知ってもらうべく、市民フェスタ等に参加し、広報に努める。
- ⑥ロゴをそれぞれの活動の講座や研修チラシ等に積極的に活用し、周知する。

3. 企画委員会

各部門から企画委員を委嘱し、センターの事業企画・運営について議論する。企画委員会は 2 か月に一度開催予定。

昨年からはじめた「企画委員会発ゼミナール」を積極的に開催していく。

《2011 年度企画委員》(予定)

石打澄枝（大阪府子ども家庭サポーター協議会）、今橋千晶（チャイルドライン O S A K A）、宇治野崇弘（ユアボイス）、内山洋子（ファミリー子育て何でもダイヤル）、奥村仁美（保育部ももぐみ）、南田安紀子（子どもとあそびのネットワーク）、小谷訓子（理事）、川原由香里・辻本みゆき・合田由紀子（つどいの広場事業）、白川季句子（(仮) 子育て・子育て支援）、宮川要二（大阪市子ども相談センター不登校児童通所事業）、田中文字子、堀正嗣、山下裕子、国松祐子、山崎秀子（事務局）

4. 部門制

多岐にわたる事業の運営責任を分担するために部門制を継続する。

子ども情報研究センター組織図

会 員 総 会	センターの最高意思決定機関。
理 事 会	総会で選出された理事により意思決定を行う。 センターの企画・運営に責任を負う。
執 行 機 関	
所 長	総会、理事会の意思決定に基づく事業遂行の最高責任者。
副 所 長	所長を補佐。
事 務 局 長 事 務 局 次 長 事 務 局 員	所長の指示の下、各事業の連絡調整等、事務の実務を遂行する。
企 画 委 員 会	所長の下に置かれ、総会・理事会の決定に基づいて、センターの企画運営を行う。多岐にわたる事業の連絡調整機能を担う。
部 門	多岐にわたる事業の運営責任を分担する。総会・理事会の決定に基づき、所長の指示の下、各部門の意思決定・企画運営を行う。 <ul style="list-style-type: none">・ 研究部門・ 編集部門・ (仮) 子育て・子育て支援部門・ ファミリー子育て何でもダイヤル部門・ 子どもとあそびのネットワーク部門・ 大阪府子ども家庭サポーター協議会部門・ 保育部ももぐみ部門・ チャイルドラインOSAKA部門・ 子ども家庭相談室部門・ ユアボイス部門・ 大阪市こども相談センター不登校児童通所事業部門・ 大阪市つどいの広場事業部門

事務局体制

事務局長：山下裕子、国松祐子

事務局次長：山崎秀子

事務局員：大森順子、榎雄喜

5. 「はらっぱ基金」

子どもの権利擁護事業のさらなる展開をめざして、2007年度「はらっぱ基金」を創設した。当面は、各種事業の継続が危機に瀕したり、新たな事業の開始が必要になるときまで、できるだけ有利に預金しておくこととする。

II 事業

1. 子どもの人権、人権保育・教育等に関する研究、研修事業

(1) 共同研究者会議

今後のセンターの研究活動のあり方、研究と実践の連携のあり方などについて検討していきたい。

(2) テーマ別研究部会

下記の5つのテーマ別に会員の自主ゼミナールとして運営する。

- ・ 障害児の生活と共育を考える：4/24（日）に学習会を開催。講師：月川至さん（特定非営利活動法人出発のなかまの会 理事長）、テーマ：知的障害児・者のおかれてきた状況について。

国の障害児教育に関する動向もかんがみ、企画委員会発ゼミナール等他の部門と連携しながら、数か月に一度程度、学習会を開催予定。

- ・ 子どものことばと生活：今、保育の実践で大切なのは、一つには、豊かな遊びを紡ぎ出すことである。子どもは、遊ぶなかで育つという保育の原則は変わらぬ真実である。1989年に改訂された保育所保育指針、幼稚園教育要領から、改めて遊びを保育の中心に据えるということになった。それから早くも20年経つが、保育の現場で実践し切れているだろうか。子どもの自発的な遊びを引き出す努力と工夫は重ねられているが、子どもたちの遊びの実態は、必ずしも豊かとはいえない。当部会は、絵本の活用を通して遊びの展開をはかるという実践に注目して、実践を分析してきた。その活動を今年も継続したい。自然発生的な遊びを、子どもの飽きるのにまかせて見守るというのではなく、羨みかけた遊びをさらに発展する契機として絵本を与える実践を意識して収集している。もう一つは、ことば表現と人とのかかわる力の相関的発達を大切にするという取り組みに注目していきたい。部会では、つぶやきを大切にしてきた。つぶやきに子どもの思いを読み取るだけでなく、人とのかかわる力の育ちの仕組みを明らかにしようということで、つぶやき実践を大切にしていこうとしたい。その他、実践報告を読み合わせていきたいと考えている。

- ・ からだ育て：(A) 昨年度に引き続き、野口体操、つるまき体操のからだ観を基底に、ふれあいあそび、わらべ唄あそび、からだほぐしの実技とお話。また、食育、給食問題、くらしのなかの健康法などもとりあげる予定。
(B) 前年度、聖愛園（5歳児との）での活動は、ボール運動（ドッジボール）、走ること、リレー、なわとび、冬のあそびだった。引き続き、ボールあそび、季節にあったあそび、運動会につながるあそびなどを予定

している。

- ・子ども人権：ここ数年、「子どもの人権」や「人権教育」にかかわりのある文献を読む作業を中心に、読書会的な形で部会運営を行ってきた。2011年度も2010年度からの継続で、当面は喜多明人ほか編『[逐条解説]子どもの権利条約』（日本評論社）を読む会を中心にした運営を実施する予定である。なお、この本をひととおり読み終えたあと、次にどんな本を読むかなど、今後の部会運営については、2011年度中に部会の主だったメンバーとあらためて協議することにした。
- ・子育て連携：2006年度から、保育・教育実践のなかにみる福祉と教育の連携をテーマに、文献購読や聞き取りをつうじて草創期からの部落解放保育・教育の足取りをたどってきた。2009年度からは、地域社会の子育ちに焦点をあて、部落解放子ども会の活動にさまざまな立場関わってこられた方に話をうかがい、部落解放子ども会の活動を立体的にとらえた議論を積み重ねている。2011年度も同様の取り組みを続けていく予定である。

(3) 第33回人権保育教育連続講座

前期は6～7月、後期は10～11月に開催予定。プログラムは企画中。

○時間：14：30～16：30

○場所：未定

(4) 第32回全国保育集会（自治労主催／子ども情報研究センター協賛）

2011年7月29日（金）～7月31日（日）富山県にて開催予定。

(5) 第6回大阪発 保育・子育てを考える集い（自治労大阪府本部との共催）

2011年9月4日（日）エルおおさかにて開催予定。

(6) 自然教室

森山康浩理事長を講師に、自然教室を開催。宿泊研修のほか、日帰り研修も実施予定。

(7) 子ども支援学研究会

子どもオンブズパーソン研究会、子どもの権利条約総合研究所との共催で、子ども支援学研究会を開催する。

(8) 地域子どもアドボケイトネットワーク構築プロジェクト【新規】

イギリス全土で実践されている子どもアドボケイトの実践に学び、子どもアドボケイトネットワークを構築することを目的とする。

〔予定〕2011年度：5月（総会記念企画として）子どもアドボケイト基礎講座①「子どもアドボケイトとは」堀正嗣、栄留里美

11月 子どもアドボケイト基礎講座②「子どもアドボカシーの理論と実際」ジェーン・ダリンプル、ヒラリー・ホーラン

2012年度：8月 子どもアドボケイト実践講座 ケイト・マーシャー
10月 子どもアドボケイト応用講座

2. 編集・出版、情報提供事業

(1) 機関誌『はらっぱ』(月刊)の編集・発行

月1回編集会議を開き、編集に当たっていく。

「ティーンズメッセージ from はらっぱ」コーナーの企画、取材、執筆は、新たに、子ども編集スタッフが担当する。

編集委員：田中文子(編集長)、大森順子、合田由紀子、国松祐子、近藤亜矢子、
社納葉子、二葉智代、堀井二実、増山育子

① コーナー構成は下記のとおり。

表紙／もくじ／特集／グラビア／ティーンズメッセージ from はらっぱ／子どもの世界・おとなの世界(浜田寿美男さん連載)、サバイバル手帳(辛淑玉さん連載)(隔月)／子ども時評／保育・ゆめ・未来／仕事のゲンバ／ともに生きる(堀正嗣さん連載)、保育教育のホンネを語る～王さまの耳はロボの耳(隔月)／子育ての「これってどうなん?」／はは日記、親と子の自然教室(隔月)／子どもと医療～ドクター、こんなこと聞いていい?／はらっぱを吹く風【新規】／校長日誌【新規】／子どもが答えるおとなの悩み【新規】、vs. 奇妙で鬱陶しいこの社会奮闘なう(隔月)／シネマな視点【新規】／LETTERS／自由空間☆きらり／つどいの広場／だから、これが好き／子ども家庭サポーターだより／〇月の予定／ニュース切り抜き帳／情報／ピックアップ／事務局日誌

② 特集テーマ：年間を見通し、総会記念イベントや保育関係集会、講座等とタイアップさせて、特集を組んでいく。

4月号：韓国「京畿道児童・生徒人権条例」

5月号：子どもと図書館(仮)

6月号：「食べる」こと(仮)

7月号：障害児保育(仮)

8月号以下検討中

③ 『はらっぱ』専用ブログの更新、充実に努める。

<http://ameblo.jp/harappa307/>

(2) ホームページ、ブログ

ホームページおよびブログの更新に努め、情報発信を行う。掲載内容の充実に努め、情報提供に務める。

ホームページ <http://www.kojoken.jp>

ブログ <http://www.hnpo.comsapo.net/kojoken/>

3. 地域子育て支援ネットワーク事業

(1) (仮) 子育て・子育て支援部門【改変】

はっぴいポケットでは、乳幼児期の子どもとその親の声を聴きあい、一緒に居場所づくりをしてきた。(仮)子育て・子育て支援部門では、これまでのはっぴいポケットの活動を大切に、子育て支援部会での学びやつながりとともに、いろいろな視点から「子育て・子育て支援」を考えていく。

- ①子ども関連施策学習会を開催する。
- ②いろいろな立場の人の声を聴きあう会を開催し、『子育て温泉～新しい子育て・子育て支援』の本の読みあわせを行う。
- ③隔月ミーティングを開催する。

(2) ファミリー子育て何でもダイヤル（連合大阪からの事業委託）

- 電話番号 06-6577-1001
毎週水曜日午前10時～午後8時(年末年始祝日は除く)
- 体制 1日2～3シフトを組んで担当
- スタッフ 35名
- スタッフミーティング(月1回)
ケース検討、スタッフ研修、交流会、事務連絡。
2011年度はスタッフ同士の交流と研修を充実させていく。
ダイヤルの原点である「誰が受けても話し手の気持ちに寄り添いながら聴くというスタンスで、皆で受けていくこと」をもう一度確認していく。
- 広報活動 カード配布、スタッフによる周知活動等
- 年次報告書の作成

(3) 子どもとあそびのネットワーク

「子どものあそびをキャッチ」をテーマに活動する。あそびのプロセスをおとなも子どもも共有し、子どもの自主的なあそびから、子どもの力を感じあっていく。

- ①定例会を隔月に実施する。
新しい方にも気軽に参加いただけるように広報する。
- ②『こどものあそびをキャッチ』(ごきげん編・たべもの編)の広報活動を行う。
交流会を実施し、行政機関とのつながりをつくっていく。
- ③檜の木玉セットを貸し出す。
グループへ応援に行くことで学びあう。
- ④はらっぱごっこ(公園あそび)に参加する。
身近な自然の中で、子どものあそびをキャッチする。
- ⑤ブログの公開 <http://asonet.exblog.jp/>

(4) 大阪府子ども家庭サポーター協議会(サポーターネット)

「子ども炊き出しプロジェクト」(愛称「子どもげんきプロジェクト」)を継続して実施する。朝日新聞厚生文化事業団「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」を受け、

2009年12月からプロジェクトをスタートした（助成事業としては10月末まで）。モデル地域として、大阪府内の1市（東大阪市）で開催中。

- ・炊き出し（こどもげんきまつり）を、4～8月まで東大阪市内で毎月1回開催
- ・「子ども炊き出しプロジェクト」報告書作成（10月）
- ・「子ども炊き出しプロジェクト」報告会、兼、子ども家庭サポーター交流会の開催（12月予定）

(5) 保育部ももぐみ

「2011 保育担い手育成講座」で新しく出会ったももぐみメンバーとともに、子どもの人権を大切にしたい保育を多方面に広げていく。講座等の保育依頼だけではなく、個人の保育依頼も担っていけるように、柔軟で、なおかつ安心なももぐみの保育のかたちを築いていきたい。保育のなかで感じたことを伝えあい、語りあいながらつくっていくことが大切と考えている。

通信は、年3回発行。講座も、新しい人との出会いのきっかけとなるように不定期であるが継続。地域の一時保育の拠点づくりについても、学ぶ機会をもちたいと考えている。

4. 子どもエンパワメント事業

(1) チャイルドラインOSAKA

- ①開設時間：毎週金曜日 16時～21時（年末年始、祝日は休み）
子どもの日・秋のキャンペーン時は、土曜日にも開設。
- ②開設番号：0120-99-7777
- ③定例会議、運営チーム会議の開催
- ④現任スタッフ研修、支え手研修の開催
- ⑤大阪府の北部、未配布の部分を中心に広報：カード・ポスターの作成・配布
- ⑥チャイルドライン受け手養成講座の開催
- ⑦チャイルドラインチャリティイベントの開催
- ⑧助成金や企業へのファンドレイズ（資金集め）
- ⑨他団体との連携
 - ・チャイルドライン支援センター総会（6/4）
 - ・チャイルドライン大阪連絡会（年4回開催）
 - ・チャイルドラインひがしおおさか（⑥の合同開催、秋予定）
 - ・近畿・北陸エリア研修、近畿・北陸エリア会議
 - ・チャイルドライン全国フォーラム（11/26、27）

(2) 子ども家庭相談室

- ①開設時間：毎週月・火・木 10時～20時 TEL06-6577-1001
面接は木曜のみ（面接予約 TEL06-4708-7087）
- ②「被害者救済システム」連携支援機関（大阪府教育委員会からの業務委託）
- ③年次報告書の作成

(3) ユアボイス

- ①番組作成及び更新：原則、隔週土曜日の夕方。
- ②過去の番組（電話版）関連情報のデータ化。
- ③ボイスメール獲得のためにインターネットを通じて宣伝。
- ④休止しているコーナー（スタッフのつぶやき等）の再開。
- ⑤見やすさの追求とテーマごとに複数の番組作成。（ブログ版）

ボイスが来ない限り、ユアボイス本来の形にはならないため、まずはそこに力を入れる。届いたボイスの内容を中心に番組をつくり、番組閲覧者同士のボイスをつなげられる場をめざす。

(4) ティーンズメッセージ from はらっぱ

『はらっぱ』誌上でさまざまな子どもたちの生の声や活動を発信していく。今年度より、新たに子ども編集スタッフが企画、取材、執筆を担当する。

5. 行政との協働

業務委託をはじめ、行政との協働を引き続き行う。

(1) 大阪市こども相談センター不登校児童通所事業（大阪市からの業務委託）

「自由空間☆きらり平野」

- ①対象：原則として小中学生年齢の学校に行っていない子ども。
- ②開設日時：火・水・金・土 11：00～15：30（祝日は休み）
- ③スタッフ：コーディネーター、ボランティアスタッフ

(2) 大阪市つどいの広場事業（大阪市からの事業委託）

大阪市つどいの広場事業の委託を受け、市内3か所でつどいの広場を実施する。

- ・港区：はっぴいポケットみ・な・と（月・火・水・金・土 10：00～15：00）
- ・淀川区：育児&育自“この指と～まれ!”（月～金 11：00～16：00）
- ・北区：みつるポケット（月～金 10：00～15：00）

(3) 24時間電話相談（大阪府教育委員会からの業務委託）

- ①開設日時：2010年4月1日～2011年3月31日の祝日・休日の全日
- ②開設時間：平日 17時半～翌朝 9時半および祝休日終日
- ③電話番号：0570-078310（全国統一電話番号）、06-6577-5125（直通電話番号）

(4) 「被害者救済システム」連携支援機関（大阪府教育委員会からの業務委託）

(5) 大阪市子ども家庭支援員研修事業（大阪市からの業務委託）

(6) 大阪市児童虐待予防地域協力員現任研修（大阪市からの業務委託）

(7) その他

行政からの講座・研修の企画運営を受託・実施。

6. その他

(1) 『自治労の保育運動』編集（自治労中央本部からの業務委託）

年2号（7月、11月）の発行。

(2) 国際交流事業

アジア保育・教育交流推進実行委員会「大阪マイペンライ」に参加。監査役を務める。
大阪マイペンライ「タイ保育研修事業」への講師派遣。

(3) 講師紹介事業

行政、社会福祉協議会、NPO等が主催する講座等に講師の紹介をしていく。

(4) 講座企画・運営委託事業

行政、学校等からの講座・研修の企画運営を受託・実施。

(5) インターンシップの募集・受け入れ

今後の人材を育成し、新たな出会いを広げることを目的に、インターンシップの募集・受け入れを行う。ホームページへの掲載、大学への広報により募集。民間団体での事務局業務や子ども家庭支援等、実地体験の機会としてもらう。

募集内容

- ① 民間団体（法人）運営について学びたい方
 - ・事務局にて事務作業、事業運営の各種サポート
- ② チャイルドライン（子ども専用電話）について学びたい方
 - ・チャイルドライン運営のサポート
 - （チャイルドラインの電話を受けるボランティア（受け手）を希望する方は、養成講座受講が必要。受講料は実費要）
- ③ 子育て支援、子ども家庭支援、保育について学びたい方
 - ・子育て支援、子ども家庭支援、保育に関わる事業のサポート
 - ・「つどいの広場」（大阪市より委託運営、3か所）での実習
- ④ 不登校の子どもの居場所について学びたい方
 - 「自由空間☆きらり」（大阪市より委託運営）での実習
- ⑤ ホームページ制作、チラシ制作、広報について関わりたい方

(6) 企業と連携した子育て講座、イベント等の企画・開催

企業と連携した子育て講座、イベント等の企画・開催、企業の社員向け子育て講座、経営者・管理職向け子育て支援講座等について、企画の検討を進めていく。

2011 年度役員体制

(任期 2011 年 7 月 1 日～)

理事	森山 康浩	(子ども情報研究センター共同研究者)
	寺内 信人	(自治労大阪府本部 健康福祉部長)
	高橋 定	(部落解放同盟大阪府連 子育て運動部長)
	松井 千穂	(連合大阪 政策・広報担当)
	大西 智子	(大阪府教職員組合 中央執行副委員長)
	田中 文子	(子ども情報研究センター所長、 川西市子どもの人権オンブズパーソン専門員)
	堀 正嗣	(子ども情報研究センター副所長、 熊本学園大学教員)
	小谷 訓子	(子・己育ち相談「リリーフ」主宰)
	桜井 智恵子	(大阪大谷大学教員)
	監事	堀井 二実
堀 千代		(常磐会短期大学教員)